

平成 27 年度鍼灸等研究費研究成果 要約	
研究課題名	慢性膝痛に対するマッサージ療法の持続効果に関する検討
班長 氏名/所属機関	栗原 勝美/東京都立文京盲学校
班員 氏名/所属機関	緒方 伸彦/福岡高等視覚特別支援学校 柏木 慎太郎/福岡高等視覚特別支援学校 柴田 健一/筑波大学附属視覚特別支援学校 高澤 史/北海道札幌視覚支援学校 西村 みゆき/東京都立文京盲学校 古川 直樹/北海道札幌視覚支援学校 水出 靖/東京有明医療大学大学院保健医療学研究科 和田 恒彦/筑波大学人間系
1.目的	膝関節痛に対するマッサージ療法の持続効果を検証することを目的として、多施設間連携によるランダム化比較試験を行った。
2.内容	<p>【対象】 施術所および通所介護事業所、計 4 施設の利用者と、膝関節痛を有し、かつ一定の基準を満たし、事前に研究の趣旨と概要を説明して同意の得られた 27 例を対象とした。</p> <p>【方法】 封筒法にて、介入群 15 例（平均年齢 71.7±6.8 歳）と対象群 12 例（平均年齢 75.9±9.4 歳）に無作為に振り分けた。介入は膝関節周囲の軟部組織に対してオイルを用いたマッサージ施術と運動療法を 15 分間、週 1 回・計 4 回行うこととし、対照群は介入相当時間安静臥床とした。評価は、①日本版変形性膝関節症患者機能評価表（JKOM）、②膝関節屈曲可動域、③疼痛出現躊躇角度、④ 3 m Timed up and Go Test（TUG）、⑤疼痛の Visual Analogue Scale（VAS）とし、介入前後で測定した。有意差検定は反復測定分散分析、Bonferroni の多重比較法を行った。有意水準を 5%未満とした。</p>
3.成果/考察	<p>(1)JKOM  ベースラインに対して 4 回目は介入群で有意な増加（49.3±11.7 から 66.0±33.2）を認め、膝関節機能の改善が得られたことが示された（<math>p &lt; 0.05</math>）。一方対照群は、増加（45.9±9.3 から 54.0±11.7）したが有意差は認めなかった。</p> <p>(2)膝関節屈曲 ROM  介入群はベースライン 131±16° から 4 回目 137±11° に有意に拡大した（<math>p &lt; 0.05</math>）。対照群は有意な変化は認めなかった（137±11° から 132±8°）。</p> <p>(3)TUG</p>

	<p>介入群はベースライン <math>10.3 \pm 2.6</math> 秒から 4 回目 <math>9.4 \pm 1.9</math> に有意に減少した (<math>p &lt; 0.05</math>)。対照群は <math>10.5 \pm 3.1</math> 秒から <math>10.1 \pm 2.9</math> 秒で有意な変化ではなかった。</p> <p>(4) 疼痛出現蹲踞角度・疼痛の VAS 両群間で有意な差は見られなかった。</p> <p>以上の結果から、膝関節機能の改善について、膝関節痛に対するマッサージ療法の持続・累積効果が示唆された。</p>
--	--